

レッスン22

A. お祈りの暗唱と暗記

冒頭のお祈りの後、子どもたちは前回のレッスンで紹介されたお祈りを暗記します。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

「幸せになりたい」

(『ブック3 子どもクラスの歌』CD、13番)

知らなければならないこと

この教えで示すこと言葉でなく行いで

友にも敵にも教えで示す

私はなりたい幸せに強く

私はなりたい神のしもべに

私は神の決まり守る

私は神の決まり守る

知らなければならないこと

この世は華やかな見世物

人は口先だけに疲れ

あなたが実践すること望んでる

私はなりたい 幸せに 強く

私はなりたい神のしもべに

私は神の決まり守る

私は神の決まり守る

私は神の決まり守る

C. 引用文の暗記

子どもたちはこのレッスンで、忠実というテーマに焦点を当てた次の引用文を暗記します。これを説明する時、以下のアイデアは役に立つでしょう。

忠実な魂は、神が与えてくださったすべての恵みを決して忘れず、いつも神を愛します。どんなときでも、たとえそれが難しい時であっても、神の教えとその法に従うよう最善を尽くすのは、神への忠実からです。神に喜んでもらえることだけを考えて、他の人に奉仕し、価値のある行いをするよう、一所懸命頑張るのです。忠実な魂には、神に喜んでもらえるよう努力するのが一番の喜びです。次のバハオラの引用文を暗記しましょう。

大いなる努力という衣服で盛装し、この大業へ奉仕するために立ち上がった忠実なる者は幸いなり。 125

<努力>

1. 生徒たちは学校の周りに木を植えることにしました。共同体は、生徒たちの努力を助けるために、苗と土を用意しました。
2. ピエール君とアーリンちゃんは、一人で暮らしているおばあちゃんのお見舞いに行くことにしました。バスに乗るとお見舞いのお花を買うお金が足りなくなるので、歩いて行くことにしました。二人の努力は、おばあちゃんを喜ばせました。

<衣服>

1. ある国では、裁判官は法廷で、白髪のカツラと黒の長い礼服を着なければなりません。彼らは裁判官としての衣服を着なければならないのです。
2. 王子様は、宮殿を出る前に、飾り帯と冠を身につけます。王子様は高貴な衣服を着ます。
3. ヤーコブ君は、毎日、家を出る前にお祈りをします。お祈りは彼の魂が着る衣服のようなものです。それらの衣服は一日中、ヤーコブ君を強くして、守ります。

<盛装する>

1. マエちゃんは特別な時にしか着ないドレスがあります。共同体の集まりで、そのドレスを着て盛装しました。
2. ナタリアちゃんは誰に対しても親切です。神様は彼女の魂を親切という衣服で盛装しました。

<忠実> (☆: 英語にはない)

1. クラスの掃除当番は、校庭もきちんと掃除をしてきれいにしました。当番の子どもたちは決められたことを忠実に実行しました。
2. ジョン君と友達のジョージ君はいつも助け合いました。他の友達がジョン君を無視した時も、ジョージ君は親切にしました。ジョージ君は忠実な友達でした。

<幸いなり >= 幸せである。恵まれている (☆)

D. お話

アブドル・バハが少年だったころ、ペルシャの貴族であった彼の家には、イスファンディアという名の召使いがいました。彼は師の家族にとっても忠実で、みんなは彼をとっても信頼していました。嫉妬や無知に駆られた政府当局が、師の愛するお父上バハオラを逮捕したとき、家族の所有していたものは全て没収されました。バハオラに近い人たちはみんな危険にさらされました。それでも、イスファンディアはバハオラの家族のお世話をし続けました。たくさんの役人がイスファンディアを捜しているのを知って、アブドル・バハのお母さんは、彼に町を出るよう勧めましたが、イスファンディアは去ろうとはしませんでした。

彼は、いろいろな買い物をし、たくさんの店に借金があるので、「どこへも行けない」と説明しました。「借金があるのにどうして去ることができるのでしょうか?」と言うのです。そして、「みんなが言うでしょう、バハオラの召使いがいろいろなものを買って、支払いを済ませていないと。ですから、私は全部の支払いを済ませるまではどこへも行けません。もし、彼らが私を捕まえても仕方ありません。罰を与えられても気にすることはありません。私が殺されても悲しまないでください。でも、逃げることはできません。借金の支払いが済むまでここに残ります」

一か月間、イスファンディアは通りや市場を廻りながら、自分の持っていたものを売りました。彼が借金をすべて払い終わったとき、アブドル・バハの家族のところに行って、お別れを言いました。彼はもうそれ以上そこにとどまることはできないと分かっていたからです。ある大臣が彼を引き取り、危険な期間、彼を保護することを同意してくれました。

何カ月かして、バハオラは牢から出され、政府当局によって、ご家族と共にペルシャから追放されました。彼らは隣国の都市、バクダッドへ行きました。バハオラに忠実なイスファンディアは、もう一度バハオラに仕えさせてもらうようお願いするためにバクダッドまでやって来ました。バハオラは彼におっしゃいました。「お前が私たちのところを去って、だれもお前を守ることができなかった時、ペルシャの大臣があなたを助けてくれたではないか。彼はお前に避難所を与え、守ってくれたのだから、彼に忠実でなければならない。もしその大臣がお前の出て行くことに賛成なら、そのときは私たちのところへ来なさい。でも、彼がお前を行かせたくないならそれに従いなさい」

もちろん、イスファンディアはとても正直で、信頼でき、忠実な人だったので、その大臣は彼を手放したくありませんでした。「ああ、イスファンディアよ!」と、声を上げて言いました。「まだ、あなたに行って欲しくないんだ。あなたが行きたいなら仕方がないが」。しかし、イスファンディアはバハオラの言葉を思い出しました。それで、イスファンディアは大臣のところに残ることにし、それから、しばらくしてその大臣が亡くなるまでそこで仕

えました。その後、再び愛するバハオラのご家族の元に戻り、亡くなるまでアブドル・バハに仕えました。

E. ゲーム: 誰がドアをノックしているのか?

一人の子どもが目隠しをして他の全員を背にしてベンチに座ります。その子どもたちの一人が目隠しをしているこの所に来て、ベンチをノックします。目隠しをしている子は、「誰が私のドアをノックしているの?」と尋ねると、ノックした子は「それは私!」と、声を変えて言います。目隠しをしている子はそれが誰かを当てます。3回まで試すことができます。その後、目隠しを別の子に変わってゲームを続けます。目隠しをしている子が一所懸命に聞いている時、他の子は静かにしていなければならないと子どもたちに注意しておくのが良いでしょう。

F. ぬり絵 22

G. 終わりの祈り



おお どりよく 大いなる努力という衣服で盛装し、
たいぎょう この大業へ奉仕するために立ち上がった ちゅうじつ 忠実なる者は さいわ 幸いなり。